

令和4年度(令和3年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	6-3
PDCA	主要事業名	平和運動推進事業	部課名	総務部総務課	担当	246
					内線	木原

P

総合計画との関係性と予算根拠

総合計画：5－3－1

単位施策：行政運営

全体事業期間：令和3年度～3年度

全体事業費等：544千円

会計一般会計

歳出科目02.01.12.20.01

3か年実施計画（当該年度事業費等）：—

千円

事業概要等

事業概要：平成5年の非核平和都市宣言等をベースに、恒久平和に寄与するための地方自治体としての各種平和運動を推進する事業を実施。

事業目的：次世代を担う小中学生を中心に、市民に幅広く各種事業への参加や意識醸成をはたらきかけ、戦争の悲惨さ平和の尊さを伝えていく。

事業内容：半田の戦争遺跡見学会、平和懇談会（出前講座）、平和ポスターコンクール等。

問題点・課題等：国際平和に資する外交や防衛は国の機関で進められ、市民意識の醸成等がただちに結果として結びつくものではないが、地域に根差した活動を継続的に実施していく。

予算額

544千円

財源内訳

市費516千円

国費0千円

県費0千円

その他28千円

主要事業とする理由

市政施行80年を経る中で、比較的早い時期から、議会決議や非核宣言等平和運動推進への姿勢を示してきている経緯もふまえ、継続的に市として取り組むべき事業のため

得られる成果

戦争を未体験の世代や次世代を担う子どもたちに、平和の尊さを伝えていくことで、恒久平和に向けた意識が醸成される。

目標値や目指すべき状態

各種事業の実施を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さへの意識が高まる市民が増加する。

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

D

値得られた成果と実績

決算額

76千円

得られた成果

戦争を未体験の世代や次世代を担う子どもたちに、平和の尊さを伝えていくことで、恒久平和に向けた意識の醸成に寄与できた。

成果指標

令和3年度

単位

各種事業の実施を通じて、戦争の悲惨さや平和の尊さへの意識が高まる市民が増加する。

実績値

—

目標値

—

C

課題の整理

事業の評価・課題

C

新型コロナウイルス感染症の影響下において、対策を施しながら実施可能な事業を児童生徒等に実施した。本年度より、半田の戦争の記録の概要版となる「はんだにもあった戦争」リーフレットを作成し、出前講座等での配布や学校へのデータ版配布等、広く手に取っていただけるような諸方策を実施した。

A

課題解決の方向性

今後の事業の方向性

改善推進

戦争体験者の高齢化により、戦争を知らない世代へ直接伝承していく機会の減少が見込まれる。現在の講師を依頼している「半田空襲と戦争を記録する会」と後継者育成に力を入れていく。また、半田の戦争記録概要版である「半田にもあった戦争」を活用し、小中学生への啓発活動を継続していく。

観点別評価

必要性

有効性

効率性

①市の関与の妥当性

妥当

④上位施策への貢献

—

⑦コスト削減余地

ない

②市民ニーズ

低い

⑤成果向上の余地

ある

⑧受益者負担適正化余地

ない

③休廃止の影響

大きい

⑥類似事業の有無

ない

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用